

本書の著者ドーリー・カルダグアーリョ・ペルゴザ氏は永年農務省聖州支局長として活躍する間、廣く各地の植民地を訪問して聖州農業者との卓識と指針を通じて何人かの農業者を知り得た。氏の著者はさしては稀に見る實際家で、氏の著書は机上より寧ろ野に鉛を取ることから生まれている。時には親しく農業家を交へて語り、又は先進國の新業の特徴を識見の交換をする等々のアバカナテ樹栽培の選定法、栽培木前定の如きが載っている。本著は辭書類によりよく得する辞典である。加ふるに本書は辭書類に讀む人に最も早く、最も簡単な方法である。本著は辞書類によりよく得する辞典である。

利息制限令 に就いて (四)

牧 義 朝

(第六) 利子遅滞 (つづき)

又「支拂延期々間に對する利子は附する

ことを得るものとし得る意味

ならない」と解釋した新聞もありますが、

右に依る「支拂延期々間に對する利子は附する」に對して利子を附すことを得る意味がある、誰も利子を契約通

又は元金或は利子支へ利子を附する

ことを得る意味がある、從

て利子を付けることが出来るものと云ふ意味なりとせば、前述の通り利子に云ふが如きは最低利の銀行利子との通

して利子を付するには至らぬ

ことになります(總)

に多くのがあります、誰も利子を契約通

して利子に對して利子を付するには至らぬ

ことになります(總)

を得る

ことはない

カユミあるデキモノには
ビシノール軟膏

幕開
クイニ
(4) 三茶
家を間違へたのも気がつかない、隣の妻君にしなだれかゝつたから
「キャツ」と云ふ大騒ぎ、濡手と拭きつゝとんで來た與太郎の女房この體を見る
「く口惜しい」
と亭主、楠倉と/or やら、酔拂つての間違と知れてあやまるやら、漸くの事で自分ノ家へ引摺つて來りましたが突然與太郎さんの横顔をビシャーリツ
「痛えツ」
「痛えのが感じるかえ」の間抜く奴、この不景氣に失業者が眞ひ間何處で飲んで來んだよ」「何をこの阿廢ア、聞いて驚いてびつくりしてシャツクリを止めて引つくり返るな」「何だつて」

幕語

(4)

から

キヤツ

見る
く
口惜
ていしゅ
主
じ
向
むなぐ
倉

つての間違
ら、漸くの事

「痛えッ」

痛々の感

何をこの阿魔
びつくりして
て別つくり返

何だつて
驚くなつてん

立看板が目に

ピシノ

娘さんだ開

思れたらしい。
いよつて云つ

がその保證金

ナ、何をするもな

牛野角の間は
が丹精してこ

ないじやない
云はれて初め

どうも話はなしが

んでは困る」といふので、役は抽籤といふ事になりクヂで當つた人だから仕方がない。いやな役だと思つたのもやつて目が面白い。毎日稽古を一生懸命、サア當日になると「みんな、仕方はいいか」甲「待つてみんなえ、顔が出来ねえんだ乙「どうして」甲「白粉がつかねえ、いくらやつても顔に飛らないんだよ」乙「ベンキを塗つたらどうだらう」甲「看板ちやねえよ」乙

位置	バウリス	條件	初年度委 正月ヨリ
外貿	貳割ヲ掛	外ニ雜作	
棉化	◆	一度實地視察ヲ	
日本文ナラ耕		無資本デモタ易 外肥沃地分譲賣 デ契約シマス	